

# 医薬品産業における合併の要因

## —特許保有のライフサイクルの観点から—

佐々木昭洋

神戸大学大学院経済学研究科博士課程後期課程

### 要旨

本稿では研究開発活動及びその成果である特許保有数の減少が、企業合併の要因の一つであると想定し、その可能性を検証する。サンプルは、我が国の医薬品企業である。マルチノミナル・ロジット・モデルによる回帰分析から以下の結果を得た。第一に企業が保有する特許の減少、医薬品を直接的に保護していると考えられる延長登録対象特許の減少、失効した特許の増加は企業に買収へのインセンティブを与えることが示された。第二に失効特許の減少、高い海外売上比率などの特徴を持つ企業が、買収の対象となることを明らかにした。また、財務環境や株式市場からの要請が、企業の合併・買収に影響を与えることも確認された。これは、米国市場における製薬企業を対象とした先行研究 (Danzon et al. (2007)) と整合的な結果であり、グローバルな競争に直面する医薬品産業に共通した傾向であると示唆された。

JEL Classification: L22, L65, O34, D22

キーワード: 企業合併, 特許制度, 医薬品産業, イノベーション